

取扱説明書

P型2級受信機

地図式

NBP234AKA05

- このたびは、当社製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- 取扱説明書の「安全上のご注意」を必ずお読みください。
- この取扱説明書は大切に保管してください。
- 万一、取扱説明書にしたがわず使用された場合の故障などについては責任を負い兼ねることがあります。

取り扱いについてのご注意

- 平常時には次のことを守ってください。受信機の取り扱いを誤ると火災時に正しく動作せず、避難や消火活動が大幅に遅れるおそれがあります。
- ベル（地区音響）一時停止スイッチを押さない。
- 受信機を地区音響強制停止音響強制停止状態にしない。
- 電源スイッチや電池を交換しない。
- 正常な監視状態にあるか確認する。（平常時の受信機の状態を参照）
- 警報が鳴ったら、まず現場を確認してください。

火災の場合	●119番などに通報する。 ●避難誘導および、可能であれば初期消火をする。
火災でない場合	●発生原因がわかれば取り除く。 ●発生原因不明のときは点検契約店に連絡し、再発防止を施す。

ご使用の前に

- この設備は、火災感知器などからの信号を受けて火災の発生を報知する働きをします。したがって、この設備は消火を行うものではありません。万一の火災などによる損害については、責任を負い兼ねますのでご了承ください。
- この設備は皆様の生命・財産を火災から守るための大切な設備です。取扱説明書をよく読み、各機器の正しい取り扱いを理解して、緊急時に備えてください。
- この設備は、常に正常な状態を維持するよう、有資格者による定期点検を行ってください。（定期点検は、施主様と施工店または点検契約店でご契約ください。）

安全上のご注意

■必ずお守りください

⚠ 警告	
	機器を分解したり、修理・改造しない。故障の原因となります。
	保守・点検以外でベル（地区音響）一時停止スイッチを押さないでください。（スイッチ内のランプ・スイッチ注意灯が点滅状態） 火災時、すぐに警報音が出ないため避難・消火活動が大幅に遅れる危険があります。 防火管理者および消防設備士などの資格者以外は受信機内部に手を触れないでください。 感電・故障の原因となります。
	ぬれた手で受信機をさわったり、水をつけたり、水をかけないでください。 感電・故障の原因となります。
	感知器は絶対に取りはずさないでください。 出火時に火災発見ができません。
	●点検用スイッチカバー内にあるスイッチは操作しないでください。（点検資格者、消防設備士が操作するところです。）

⚠ 注意	
	受信機のスイッチなどが正常な監視状態にあるか確認してください。 正常な監視状態でないと火災時に正しく動作しません。
	点検用スイッチカバーは必ず閉じてください。 引っかけたケガをしたり、誤操作の原因となります。

施工説明書別添付 保管用 屋内専用

ご使用になる皆様へ

内器：品番 NBP234AKA05

定期点検

- 防災設備は、設置後の保守点検・維持管理がともなって、はじめて正常な機能を発揮する商品です。施工店または点検契約店と「点検契約」を結んでください。

点検は法律で義務づけられています。



- 消防関係法令では、防火対象物の関係者（建物の所有者、管理者または占有者）は、定期点検の実施およびその結果を報告するように定められています。
- 点検の結果は維持台帳に記録し、定められた期間ごとに消防長または消防署長に報告しなければなりません。

■消防法施行規則第31条の6

- 点検は、消防用設備などの種類および点検内容により1年以内で、消防庁長官が定める期間ごとに行う。
- 点検を行った結果は、維持台帳に記録し、消防機関へ報告を行わなければならない。

■点検

対象の設備	点検の内容および方法	点検の期間
自動火災報知設備	機器点検	6ヶ月に1回
配線	総合点検	1年に1回
	総合点検	1年に1回

■報告

特定防火対象物の場合	1年に1回
特定防火対象物以外の場合	3年に1回

点検には資格が必要です



- 定期点検は、国が定めた資格者（消防設備点検資格者または消防設備士）が行うよう、法令で決められています。
- 消防法第17条の3の3
- 消防用設備の点検は、消防設備士または総務省令で定める資格者に行わせる必要があります。

「専門知識を有する会社」と点検契約をおすすめします



- 日本ドライケミカル製品取扱店などと「点検契約」を結ぶと、専門の知識技術を持つ有資格者が定期的に訪問し、責任を持って防災設備の点検をいたします。防災設備の正常な機能を維持するために、「点検契約」を結ばれることをおすすめします。

こんなときは

- 下記のような場合、消防法に適合しなくなったり、この設備が正常に機能しなくなるおそれがありますので、定期点検の時期まで待たずに、点検契約店にご連絡ください。

増改築 ●増築や改築をしたとき 	修繕 ●建物を修繕したとき 	塗りかえ ●天井や壁を塗りかえたとき
設備工事 ●設備の工事をしたとき 	電気・ガス・水道工事 ●電気・ガス・水道工事をしたとき 	天災被害 ●台風や地震などの被害を受けたとき

お手入れ方法

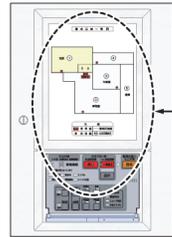
- 表面が汚れた場合は、次の方法でお手入れください。
- ふだんのおそうじは、やわらかい布でふき取ってください。
- 汚れが目立つときは、中性洗剤を薄めた液にやわらかい布を浸し、固く絞ってふき取ってください。
- 化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書にしたがってください。

注 ベンジンなどは引火性があるため危険ですので、使用しないでください。



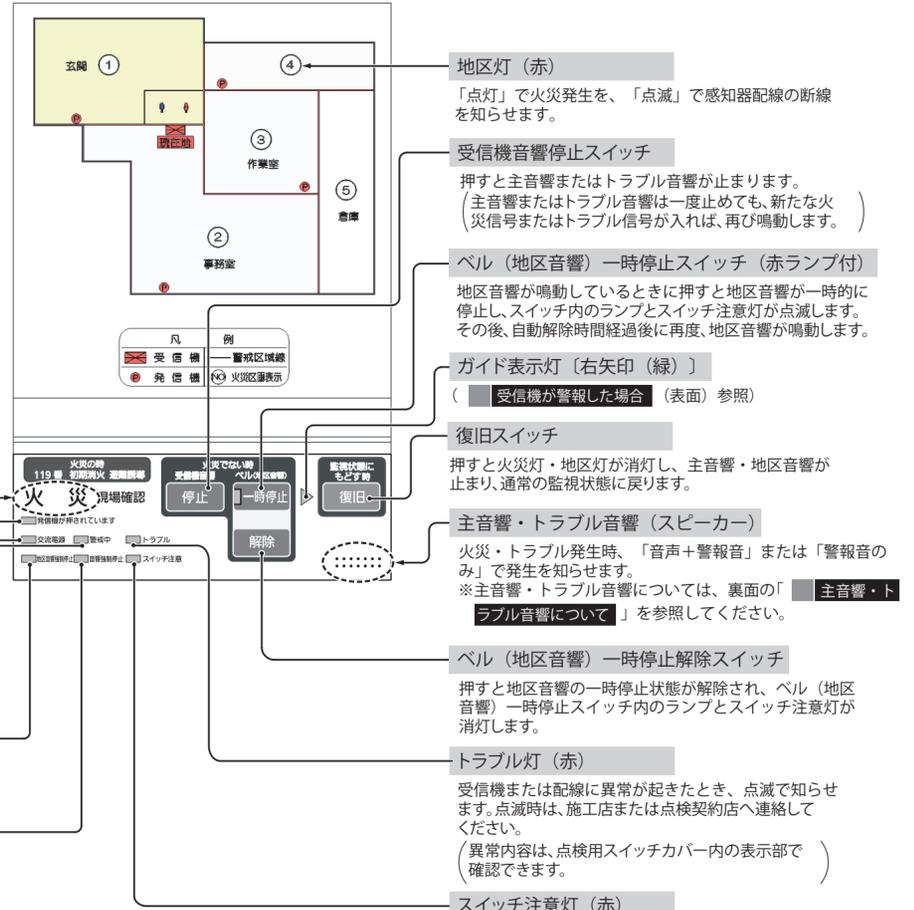
各部のなまえとはたらき

- 点検用スイッチカバーを開けた状態



操作部

- 火災灯（赤）**
火災信号が入れば点滅します。
- 発信機灯（赤）**
発信機の押ボタンが押されると点滅します。
- 交流電源灯（緑）**
交流電源が入っていることを、点滅で知らせます。
- 警戒中灯（緑）**
電源投入後、数秒程度で点灯します。試験復旧スイッチが押されている場合、または音響強制停止状態、地区音響強制停止状態の場合は点灯しません。
- 地区音響強制停止灯（赤）**
地区音響の「強制停止」状態が作動していると点滅で知らせます。
- 音響強制停止灯（赤）**
主音響の「強制停止」状態が作動していると点滅で知らせます。



受信機が警報した場合

- 主音響が鳴ったら、次の手順で操作してください。

- 発信機の押ボタンが押されて発報している場合は、発信機灯が点滅します。押ボタンを元に戻すと消灯します。
- 発信機灯が消灯している場合は、感知器が作動したことによる発報です。

- 1 受信機音響停止スイッチを押し、主音響を止める。（地区音響は鳴動しています。）



- 2 地区灯（赤）の点灯位置によってどこで火災が起きているか確かめる。

- 3 出火場所へ行き状況を確認する。

火災の場合

- 4 119番に通報する。
その後、可能であれば避難誘導や初期消火など適切な処置をする。

- 5 火災鎮火後、復旧スイッチを押して通常の監視状態に戻す。（ ■ 平常時の受信機の状態（表面）参照）



火災でない場合

- 4 ベル（地区音響）一時停止スイッチを押して、地区音響を止める。

- スイッチ内のランプとスイッチ注意灯が点滅しガイド表示灯が点灯します。
- 発信機灯が点滅している場合は、ガイド表示灯は点灯しません。



- 注
- スイッチ内のランプとスイッチ注意灯およびガイド表示灯は、自動解除時間（TA）（約2分間・約4分間・約6分間・約8分間）経過後に消灯し、地区音響が再び鳴動します。

- （自動解除時間（TA）は、約2分間・約4分間・約6分間・約8分間で設定することができます。現在、設定されている時間を確認する場合、または設定時間を変更する場合は、施工店点検契約店にご相談してください。）

- 6 復旧スイッチを押し、地区灯と火災灯が消えるか確かめる。

- ベル（地区音響）一時停止スイッチ内のランプとスイッチ注意灯およびガイド表示灯が消えます。
- 感知器の確認灯も消えます。
- ※地区灯・火災灯が消えない場合はもう一度4 5 6の手順を繰り返してください。



- 7 通常の監視状態に戻る。（ ■ 平常時の受信機の状態（表面）を参照）

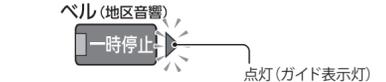
地区灯・火災灯が消えない場合や処置できない場合は、点検契約店へご連絡ください。

火災現場確認

消灯

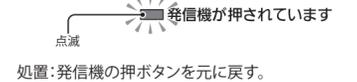
- 5 地区灯の点灯している警戒場所、次の状況を確認め処置する。

- 感知器が作動していないか？
- ガイド表示灯は点灯しています。
- 確認灯付感知器の場合、作動した感知器の確認灯が点灯します。
- 処置：作動した感知器から煙または熱を取り去る。



- 注
- 煙感知器の場合、水蒸気・ホコリ・調理の煙などでも作動することがあります。
 - 熱感知器の場合、ストーブなど暖房の熱が直接当たったり、感熱部が変化すると作動することもあります。

- 発信機の押ボタンが押されたままになっていないか？
- 発信機灯が点滅し、ガイド表示灯は消灯しています。
- 処置：発信機の押ボタンを元に戻す。



異常時の点検・処置

警告



この設備に異常があるときは以下の点検・処置をしてください。異常を放置すると火災時に警報が出ないため避難・消火活動が大幅に遅れる危険があります。

●以下の異常状態のときは、取り扱いされる方が点検・処置をしてください。

状態	点検	処置
交流電源灯が消灯している。	自動火災報知設備専用ブレーカーが「切(OFF)」側になっていないか？	専用ブレーカーを「入(ON)」側にする。
警戒中灯が消灯し、操作部のすべての表示灯が点灯している。	煙感知器の近くに調理の煙・水蒸気・ホコリなどが滞留していないか？ 熱感知器の近くにストーブなど暖房の熱が直接当たっていないか？	煙・水蒸気などを取り除き、復旧スイッチを押す。 熱などを取り除き、復旧スイッチを押す。
火災でないのに警報動作をする。	発信機の押ボタンが押されたままになっていないか？ どこにも火事や煙の発生がないことを十分確認しましたか？	発信機の押ボタンを元に戻し、復旧スイッチを押す。 地区音響を再鳴動させたくない場合は、地区音響強制停止にしてください。(施工店・点検契約店に連絡してください。)
スイッチ注意灯が点滅している。	スイッチ注意灯・地区音響強制停止灯が点滅し、警戒中灯が消灯し、約1分間隔でビ音が発生します。この状態のままで、正常に警報動作を行うことができません。必ず施工店または点検契約店に連絡してください。	●ベル(地区音響)一時停止解除スイッチを押す。 ●ベル(地区音響)一時停止スイッチの赤色ランプが点滅していない場合は、施工店または点検契約店に連絡してください。

●以下の異常状態のときは、施工店または点検契約店に連絡してください。

※印はトラブル音響鳴動設定を「使用」側に設定してある場合、音が鳴ります。(施工説明書を参照してください。)

状態	点検	処置
交流電源灯が消灯している。または、警戒中灯以外の操作部ランプが点灯している。	受信機内の交流電源スイッチが「切」側になっていないか？ 電源一次ヒューズ(F1・F2)が切れていないか？ AC100V配線が断線していないか？	受信機内の交流電源スイッチを「入」側にする。 ヒューズ(F1・F2)を交換する。 配線を直す。
警戒中灯が消灯している。	音響強制停止灯(赤)が点滅していないか？ 試験復旧灯(赤)が点滅していないか？ 地区音響強制停止灯(赤)が点滅していないか？	音響強制停止状態を解除する。 試験復旧スイッチを押す。 地区音響強制停止状態を解除する。
火災でないのに警報動作している。	感知器配線が短絡または絶縁劣化していないか？ 火災以外の原因はないか？	配線を直す、感知器を確認する。 日常点検をする。
※トラブル灯が点滅し、点検用スイッチカバー内の電池異常灯が点灯している。	受信機内の電池が接続されているか？ 電池ヒューズ(F3)が切れていないか？	受信機内の電池を接続する。 ヒューズ(F3)を交換する。
※トラブル灯が点滅し、点検用スイッチカバー内の電池異常灯が点滅している。	電池試験を行い、電池試験結果が「良」となるか？	新しい電池と交換して、再度、電池試験を行い、トラブル灯と電池異常灯が消灯することを確認してください。
※トラブル灯が点滅し、点検用スイッチカバー内の回線異常灯が点滅している。	一斉試験を行い、火災表示試験項目で全回線点灯するか？または、火災試験を行い全回線正常に火災状態になるか？	受信機内部の火災受信回路が故障です。当社へお問い合わせください。
※トラブル灯が点滅し、点検用スイッチカバー内の回線異常灯が点灯している。	感知器配線が断線していないか？ 感知器の配線に終端抵抗器が接続されているか？	配線を直す。 終端抵抗器を接続する。

●以下の異常状態のときは、施工店または点検契約店に連絡してください。
※印はトラブル音響鳴動設定を「使用」側に設定してある場合、音が鳴ります。(施工説明書を参照してください。)

状態	点検	処置
※トラブル灯が点滅し、点検用スイッチカバー内の回線異常灯が点灯している。	指定以外の終端抵抗器が接続されていないか？ 使用していない回線のおき回線設定がしてあるか？	指定の終端抵抗器と交換する。 おき回線設定スイッチを「おき(未使用)」側に設定する。
※トラブル灯が点滅し、点検用スイッチカバー内のヒューズ断線灯が点灯している。	地区音響ヒューズ(FB)が切れていないか？ 副受信機ヒューズ(FI)が切れていないか？ 表示灯ヒューズ(FU)が切れていないか？	ヒューズ(FB)を交換する。 ヒューズ(FI)を交換する。 ヒューズ(FU)を交換する。
※トラブル灯が点滅し、点検用スイッチカバー内の外部トラブル灯が点灯している。	トラブル入力端子(TB1-U)間が短絡していないか？ トラブル入力端子(TB1-U)間の接続機器が出力していないか？	配線を直す。 接続機器を確認する。
※交流電源灯が消灯し、トラブル灯が点滅し、点検用スイッチカバー内のトラブル詳細灯がすべて消灯している。	受信機内の交流電源スイッチが「切」側の状態で電池の電圧が低下していないか？ 副受信機電源(I+-I-)が20.4V以上あるか？ 停電などにより交流電源が切れていないか？	受信機内の交流電源スイッチを「入」側にする。 受信機内部の電源回路が故障です。当社へお問い合わせください。 停電状態が復電するまで待つ。
※トラブル灯が点滅し、点検用スイッチカバー内のトラブル詳細灯がすべて消灯している。	一斉試験を行い、ソフト設定確認項目でガイド表示灯(右矢印)が点滅していないか？	登録データ異常です。施工店または点検契約店に連絡してください。
火災警報状態で復旧スイッチを押しても復旧しない。	感知器または発信機が作動状態になっていないか？ 感知器配線が短絡していないか？ 発信機灯が点滅していないか？	●感知器から熱または煙を取り除く。 ●発信機の押ボタンを元に戻す。 配線を直す。 発信機の押ボタンを元に戻す。
操作表示部の警戒中灯以外のすべてのランプが点灯している。	副受信機電源(I+-I-)が20.4V以上あるか？	受信機内部の電源回路が故障です。当社へお問い合わせください。

主音響・トラブル音響について

受信機の状態	警報音	音声メッセージ
火災警報(第1報)	ピーピー	火災感知器が作動しました。現場を確認してください。(女性の声)
火災警報(第2報または発信機発報)	ピーピー	火事です。火事です。現場を確認してください。(男性の声)
トラブル	ピーー	トラブルが発生しました。(女性の声)
※蓄積開始	ピッ	—

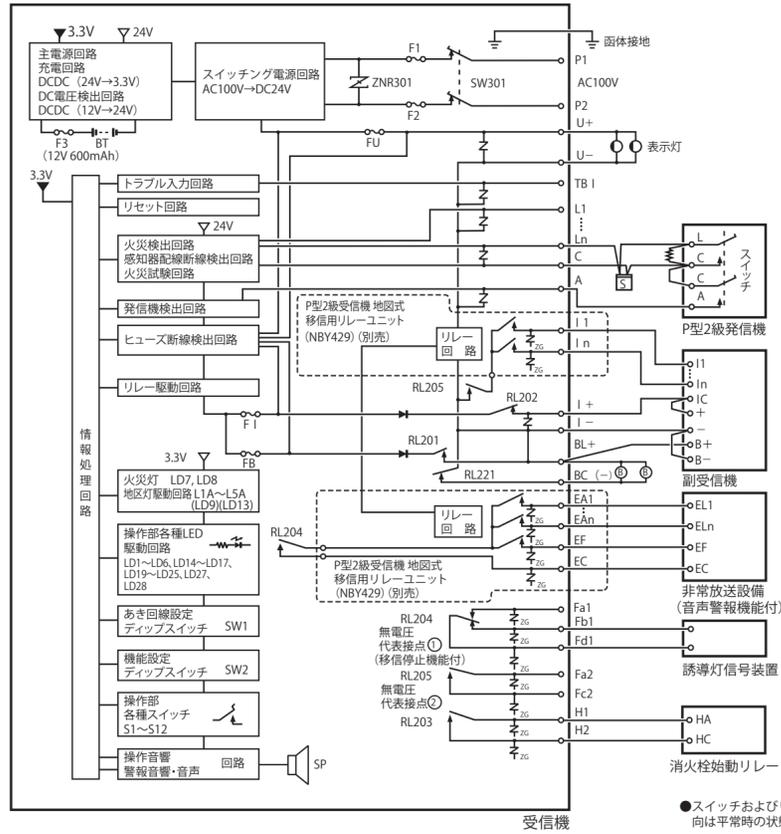
※蓄積開始音響は設定により鳴動させなくすることもできます。

連絡先一覧表

施工店や点検契約店など、記入されておくと便利です。

点検契約店	TEL
施工店	TEL
設備竣工	年 月 日

内部回路図



●スイッチおよびリレーの接点方向は平常時の状態を示します。

■適用品番 内器:NBP234AK05

記号	名称	記号	名称
SW1	おき回線設定ディップスイッチ	LD14	発信機灯
SW2	機能設定ディップスイッチ	LD15	地区音響一時停止灯
SW301	交流電源スイッチ	LD16	ガイド表示灯(右矢印)
F1,F2	電源一次ヒューズ	LD17	電池試験結果灯
F3	電池ヒューズ	LD19	蓄積解除灯
FB	地区音響ヒューズ	LD20	試験復旧灯
FI	副受信機ヒューズ	LD21	点検灯
FU	表示灯ヒューズ	LD22	移信停止灯
SP	主音響・トラブル音響	LD23	電池異常灯
RL1~RL5	回線別移信リレー	LD24	回線異常灯
RL6	非常放送火災確認リレー	LD25	蓄積中灯
RL7	代表移信リレー	LD27	ヒューズ断線灯
RL201	地区音響リレー	LD28	外部トラブル灯
RL202	火災復旧リレー	R424, R425	充電抵抗
RL203	消火栓連動リレー	S1	受信機音響停止スイッチ
RL204	火災代表移信リレー(移信停止機能付)	S2	ベル(地区音響)一時停止スイッチ
RL205	火災代表移信リレー	S3	ベル(地区音響)一時停止解除スイッチ
RL221	地区音響モニタリレー	S4	復旧スイッチ
BT	電池	S5	一斉試験スイッチ
ZNR301	サージアブソーバ	S6	電池試験スイッチ
LD1	交流電源灯	S7	選択スイッチ
LD2	警戒中灯	S8	火災試験スイッチ
LD3	トラブル灯	S9	音響強制停止スイッチ
LD4	地区音響強制停止灯	S10	試験復旧スイッチ
LD5	音響強制停止灯	S11	点検スイッチ
LD6	スイッチ注意灯	S12	移信停止スイッチ
LD7,LD8	火災灯		
L1A~L5A(LD9)(LD13)	地区灯		

※ZNR301(サージアブソーバ)は雷サージ対策部品です。

定格・仕様

国家検定型式番号	受第24~7号	
常用電源	AC100V 50/60Hz (P1-P2)	回線数 5
		消費電力:警戒時最大 9VA
		消費電力:警報時最大 27VA
予備電源	DC12V 600mAh ニッケルカドミウム蓄電池(受託評価適合品) (充電方式:トリクル充電 充電電流12.8mA)	
地区音響装置	DC24V 200mA (BL+ - BC (-))	
非常放送連動	無電圧接点(EC - EA1・EAAn,EF) 接点容量DC30V 1Aまで ※非常放送連動を行う場合は、P型2級受信機 地図式 移信用リレーユニット(別売)が必要。EC-EF接点が閉じるのは、発信機発報および感知器発報2回線以上の場合です。	
表示灯	DC24V 180mA (U+ - U-)	
副受信機電源	DC24V 150mA (I+ - I-)	
感知器電圧・電流	DC24V 短絡電流27mA 外部配線抵抗 往復50Ω以下(C-L1...Ln)	
終端抵抗器	10kΩ (5.1kΩの対応も可能)	
感知器接続数	●A熱感知器(電子式自己保持型):1回線当たり80コまで ●B煙感知器(NSS220):1回線当たり30コまで ●C光電式分離型感知器:1回線当たり1セットまで 炎感知器:当社にお問い合わせください ●上記の感知器が混在する場合は、下記の方程式により接続数を決めてください。 $A + \frac{B}{3} + \frac{C}{80} \leq 80$ ●光電式分離型感知器と他の感知器との混在接続はできません。	

主音響装置	警報音(断続音)+音声メッセージ 26mA・85dB/m以上
副受信機	DC24V 200mA/回線(C-L1...Ln) ※副受信機と接続する場合は、P型2級受信機 地図式 移信用リレーユニット(別売)が必要です。
消火栓始動	無電圧接点(H1-H2) 接点容量DC30V 1Aまで
移信接点	無電圧接点2系列(Fd1-Fa1・Fb1〔移信停止機能付〕) (Fc2-Fa2) 接点容量DC30V 1Aまで 移信用リレーユニット(別売)にて4系列追加できます。 ●Fdn-Fan移信停止機能付 DC30V 1Aまで ●火災代表移信とトラブル代表移信をジャンパー設定にて切替可能
トラブル入力	無電圧入力(TB1-U) DC24V短絡電流5mA
蓄積時間	公称蓄積時間60秒(煙感知器...60秒 熱感知器...10秒)
使用周囲温度	0℃~+40℃
適合ボックス	露出ボックス(NBY428EJ)・埋込ボックス(NBY407FJ)
質量	約3.3kg
主要部品材質	鋼板(t=1.0) 5分ツヤ有メラミン塗装



取扱説明書

P型2級受信機

地図式

内器：品番 NBP234AKA05

NBP234AKA05

- このたびは、当社製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全に作業してください。
- 取扱説明書の「安全上のご注意」を必ずお読みください。
- この取扱説明書は大切に保管してください。
- 万一、取扱説明書にしたがわず作業された場合の故障などについては責任を負い兼ねることがあります。

安全上のご注意 ■必ずお守りください

警告

絶対に分解したり、修理・改造しない。感電の原因となります。

電池は必ず接続してください。電池が接続されていないと停電時に機能しません。

試験終了後は、スイッチ注意灯が点滅しないよう該当するスイッチを平常時の状態に戻してください。戻さないと火災時、正常な火災警報動作をしません。

保守・点検以外で受信機の地区音響を「強制停止」状態にしないでください。(スイッチ注意灯・地区音響強制停止灯が点滅状態) 火災時に警報が出ないため避難・消火活動が大幅に遅れる危険があります。

ぬれた手で受信機をさわったり、水をつけたり、水をかけないでください。感電・故障の原因となります。

感知器は絶対に取りはずさないでください。発火・発煙の原因となります。

電池は火に投入したり、ショートさせないでください。爆発したり、やけど、火災になるおそれがあります。

注意

点検などで作動させる場合は、連動している設備の内容を十分確認して操作してください。不用意な操作は機器類に損害を与えたり、人に危害をおよぼすおそれがあります。

点検用スイッチカバーは操作後、必ず閉じてください。引っかけケガをしたり、誤操作の原因となります。

受信機音響の強制停止のしかた

- 点検時、受信機から主音響・トラブル音響を鳴動させない場合に設定します。
- 受信機の音響を止める場合は、「点検スイッチ」を3秒以上押ししている間に「受信機音響停止スイッチ」を押してください。(スイッチ注意灯と音響強制停止灯が点滅し、警戒中灯が点灯します。)

解除する場合

- 「点検スイッチ」を3秒以上押ししている間に「受信機音響停止スイッチ」を押してください。(スイッチ注意灯と音響強制停止灯が消灯し、警戒中灯が点灯します。)

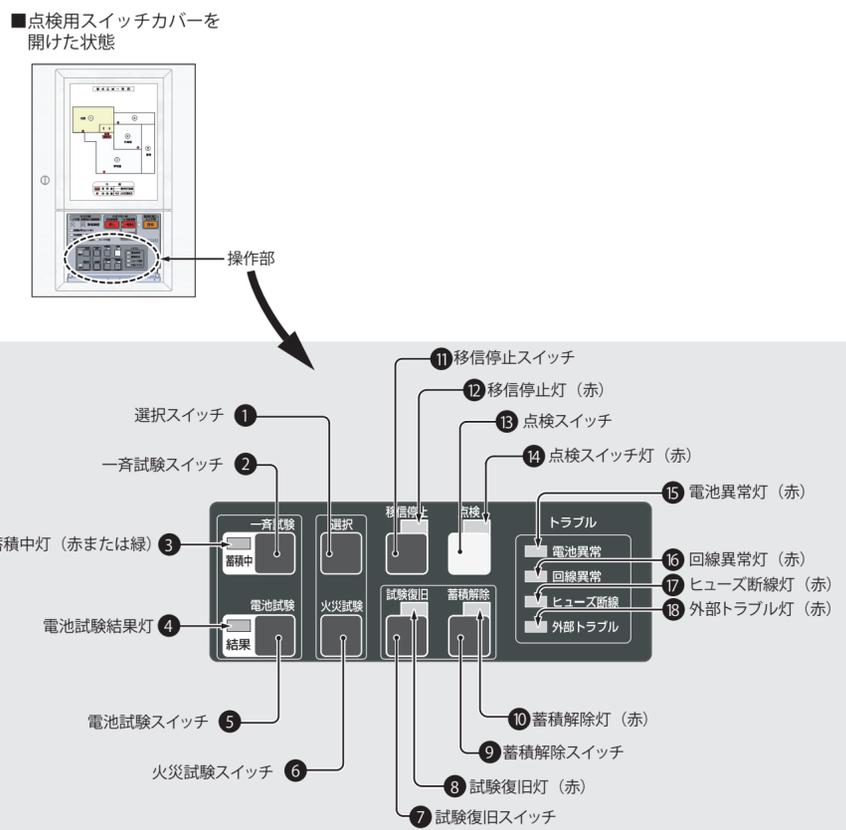
地区音響の強制停止のしかた

- 点検時、地区音響を鳴動させない場合に設定します。
- 地区音響を止める場合は、「点検スイッチ」を3秒以上押ししている間に「ベル(地区音響)一時停止スイッチ」を押してください。(スイッチ注意灯と地区音響強制停止灯が点滅し、警戒中灯が消灯します。)
- BL+-BC(DC24V出力)が連動しません。
- 約1分間隔でビップ音が鳴ります。

解除する場合

- 「点検スイッチ」を3秒以上押ししている間に「ベル(地区音響)一時停止解除スイッチ」を押してください。(スイッチ注意灯と地区音響強制停止灯が消灯し、警戒中灯が点灯します。)

各部のなまえとはたらき



- 1 選択スイッチ**
火災試験や発報履歴確認を行うときに使用します。
(「火災試験の方法」を参照) (「発報履歴の確認方法」を参照)
 - 2 一斉試験スイッチ**
押すと火災表示試験・使用回線表示試験・ランプ表示試験・蓄積時間測定試験・ソフト設定確認が順次自動的に行われます。
(「一斉試験の方法」を参照)
 - 3 蓄積中灯(赤または緑)**
蓄積時間測定試験時、または火災信号による蓄積中に点灯します。
(「一斉試験の方法」の「蓄積時間測定試験」を参照)
 - 4 電池試験結果灯**
試験時にオレンジ点滅し、結果が「良」の場合は緑点灯、「不良」の場合は赤点灯で、電池試験結果を表示します。
 - 5 電池試験スイッチ**
押すと自動的に電池試験を行います。試験結果は電池試験結果灯に表示します。
●テスターなどで電圧を測定する場合は、受信機内部の電池電圧の端子を利用します。
(「電池試験と電池の電圧測定方法」を参照)
 - 6 火災試験スイッチ**
火災試験するときに使用します。
(「火災試験の方法」を参照)
 - 7 試験復旧スイッチ**
押すと感知器の作動試験時に、感知器作動後、約6秒ごとに感知器などを自動的に自動復旧させます。(試験復旧灯…点滅) もう一度押すと、元に戻ります。(試験復旧灯…消灯)
 - 8 試験復旧灯(赤)**
試験復旧スイッチが押されているときに点滅します。
 - 9 蓄積解除スイッチ**
押すと蓄積機能が解除されます。(蓄積解除灯…点滅) もう一度押すと、元に戻ります。(蓄積解除灯…消灯)
 - 10 蓄積解除灯(赤)**
蓄積解除スイッチが押されているときに点滅します。
 - 11 移信停止スイッチ**
●押すと火災代表接点(Fd1-Fa1、Fb1)の信号出力が「停止」状態となり、火災信号が入っても誘導灯は作動しません。移信用リレーユニットを接続した場合、移信リレー代表接点(Fd3-Fa3)(Fd4-Fa4)の出力信号も「停止」状態となり、火災信号・トラブル信号が入っても誘導灯などは作動しません。また、非常放送設備への接点(EA1…EAn、EF-EC)の信号出力も「停止」状態となり、火災信号が入っても非常放送の音声警報は鳴動しません。
(移信停止灯…点滅) もう一度押すと、元に戻ります。(移信停止灯…消灯)
●火災代表接点(Fa2-Fc2)は移信停止スイッチを押しても出力を停止しません。
 - 12 移信停止灯(赤)**
移信停止スイッチが押されているときに点滅します。
 - 13 点検スイッチ**
音響強制停止・地区音響強制停止・発報履歴確認モードを行うときに使用します。
 - 14 点検スイッチ灯(赤)**
点検スイッチを3秒以上押したときに点滅(スイッチ有効状態)します。点検スイッチを3秒以上押した場合は、点検スイッチを離した後も点滅状態を保持します。(3秒点滅継続)
 - 15 電池異常灯(赤) ※**
電池に異常が起きたとき、点灯または点滅で知らせます。
 - 16 回線異常灯(赤) ※**
回線に異常が起きたとき、点灯または点滅で知らせます。
 - 17 ヒューズ断線灯(赤) ※**
ヒューズに異常が起きたとき、点灯で知らせます。
 - 18 外部トラブル灯(赤) ※**
外部に異常が起きたとき、点灯で知らせます。
- ※「取扱説明書(ご使用になる皆様へ)」の「異常時の点検・処置」を参考にしてください。

点検のしかた

点検項目	
火災試験の方法	この試験は、受信機内の試験をします。実際の火災発生時にシステムとして正常に作動することの確認は、感知器、発信機などの機器も含めて試験してください。
一斉試験の方法	この試験は、1回線目から順次、自動的に受信機内の試験をします。実際の火災発生時にシステムとして正常に作動することの確認は、感知器・発信機などの機器も含めて試験してください。
差動式分布型感知器(空気管式)の作動継続時間の測定方法	感知器が作動してから接点が開くまでの時間を測定する方法です。
感知器・発信機の作動試験時の主音響・地区音響の鳴動および点検時音響出力端子の動作により試験している回線を知らせる機能です。	
電池試験と電池の電圧測定方法	この試験は、受信機の予備電源として内蔵されている電池に異常がないかを調べるものです。電池の電圧を測定する場合は、「電圧測定」をしてください。

火災試験の方法

- 以下の試験は、点検用スイッチカバーを開けてください。
- 1 試験時、この受信機と接続されている機器を連動させないようにする場合は、次の該当するスイッチを押す。**
●火災代表移信を出力させないときは「移信停止スイッチ」を押してください。(スイッチ注意灯と音響強制停止灯が点滅し、警戒中灯が消灯します。)
●無電圧接点(Fd1-Fa1、Fb1)が連動しません。またP型2級受信機 地図式 移信用リレーユニット(NBY429)(別売)が接続されている場合、無電圧接点(EA1、…EAn、EF-EC、Fd3-Fa3、Fd4-Fa4)が連動しません。
●受信機の音響を止める場合は、「点検スイッチ」を3秒以上押ししている間に「受信機音響停止スイッチ」を押してください。(スイッチ注意灯と音響強制停止灯が点滅し、警戒中灯が消灯します。)
●地区音響を止める場合は、「点検スイッチ」を3秒以上押ししている間に「ベル(地区音響)一時停止スイッチ」を押してください。(スイッチ注意灯と地区音響強制停止灯が点滅し、警戒中灯が消灯します。)
●BL+-BC(DC24V出力)が連動しません。
 - 2 選択スイッチを押す。**
●選択スイッチを1回押すと1回線目が選択状態となり、1回線目の地区灯が点滅します。再度、選択スイッチを押すと次の回線に移行します。5回線目の選択状態から選択スイッチを押すと、選択回線のない状態になります。もう一度、選択スイッチを押すと1回線目に戻ります。
 - 3 火災試験スイッチを押す。**
●蓄積中(緑)が点灯しますので、この間押し続けてください。
 - 4 1) 火災灯が点滅する。 2) 選択した地区灯が点滅→点灯になる。**
●主音響および地区音響が鳴動します。(強制停止していない場合)
 - 5 復旧スイッチを押して、警報を止める。**
 - 6 選択スイッチを押して、選択回線のない状態になると、地区灯が消える。**
●回線選択状態のまま放置した場合でも、約3分後に地区灯が消灯します。
 - 7 1) で停止したスイッチを元に戻す。**
●音響強制停止の解除は、「点検スイッチ」を3秒以上押ししている間に「受信機音響停止スイッチ」を押してください。(音響強制停止灯が消灯し、警戒中灯が点灯します。)
●地区音響強制停止の解除は、「点検スイッチ」を3秒以上押ししている間に「ベル(地区音響)一時停止解除スイッチ」を押してください。(地区音響強制停止灯が消灯し、警戒中灯が点灯します。)
 - 8 スwitch注意灯が消灯し、平常時の監視状態に戻る。**

試験中に火災を受信した場合

試験中の回線が火災を受信した場合、7の操作のあとに火災警報します。

警告

- 試験終了後は、スイッチ注意灯が点滅しないよう該当するスイッチを平常時の状態に戻してください。戻さないと火災時、正常な火災警報動作をしません。

一斉試験の方法

- 以下の試験は、点検用スイッチカバーを開けてください。
- 1 一斉試験スイッチを押す。**
●「火災表示試験」「使用回線表示試験」「ランプ表示試験」「蓄積時間測定試験」「ソフト設定確認」を順次、自動的に行います。

火災表示試験

- 2 地区灯が回線ごとに順次、点灯することを確認する。**
●順次点灯することに火災灯が点滅し、主音響(音響のみ)が鳴動することを確認してください。
●地区音響は鳴動しません。

使用回線表示試験

- 3 使用されている回線の地区灯だけが点灯することを確認する。(約3秒間)**

ランプ表示試験

- 4 火災灯、地区灯、操作部のすべてのランプが点灯することを確認する。(約3秒間)(交流電源灯は除く)**
●ただし、このとき蓄積中灯、電池試験結果灯は「オレンジ」点灯します。

蓄積時間測定試験

- 5 1) 蓄積中灯(緑)が点灯することを確認する。**
●ピッという音で、熱感知器および煙感知器の蓄積開始を知らせます。
2) 5秒~10秒後、蓄積中灯が緑から赤に変わったことを確認する。
●ピッという音で、熱感知器の蓄積終了を知らせます。
3) 55秒~60秒後、蓄積中灯が消灯したことを確認する。
●ピッという音で、煙感知器の蓄積終了を知らせます。

ソフト設定確認

- 6 ソフト設定内容を5秒間表示する。**
※ソフト設定の内容については、施工説明書の機能設定(ソフト設定)を参照してください。
- | | |
|---------|---|
| 地区灯 | 蓄積回線:点滅、非蓄積回線:消灯 |
| 蓄積解除灯 | 蓄積開始時音響鳴動有:点灯
蓄積開始時音響鳴動無:消灯 |
| トラブル詳細灯 | 自動解除時間(TA)を表示
2分(電池異常灯:点灯)
4分(回線異常灯:点灯)
6分(ヒューズ断線灯:点灯)
8分(外部トラブル灯:点灯) |
| ガイド表示灯 | 登録データ異常発生時に点滅 |
- 以上の確認で異常がなければ正常です。

7 平常時の監視状態に戻る。

試験中に火災を受信した場合

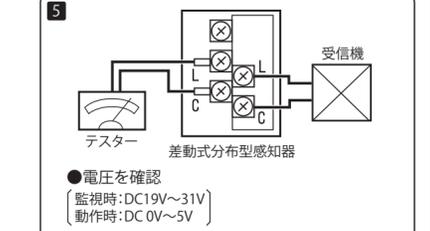
試験中に火災を受信した場合、8の操作のあとに自動的に試験状態を解除し、ただちに火災警報します。

差動式分布型感知器(空気管式)の作動継続時間の測定方法

- 以下の試験は、点検用スイッチカバーを開けてください。

テスターによる測定

- 1 蓄積解除スイッチを押す。**
●蓄積解除灯、スイッチ注意灯が点滅します。
- 2 試験復旧解除状態にする。**
●試験復旧灯が消灯します。
- 3 地区音響を強制停止する**
点検スイッチを3秒以上押ししている間にベル(地区音響)一時停止スイッチを押す。
●地区音響強制停止灯が点滅します。
●警戒中灯が消灯します。
●約1分間隔でビップ音が鳴ります。
- 4 差動式分布型感知器の試験孔に空気注入試験器で規定の空気を注入する。**
- 5 感知器のL-C端子間の電圧が0Vになっている時間を測定する。**



- 6 復旧スイッチ押して、警報を止める。**

- 7 蓄積解除スイッチを再度、押す。**
●蓄積解除灯が消灯します。

- 8 地区音響強制停止を解除する**
点検スイッチを3秒以上押ししている間にベル(地区音響)一時停止解除スイッチを押す。
●地区音響強制停止灯は消灯します。

- 9 スwitch注意灯が消灯、警戒中灯が点灯し、平常時の監視状態に戻る。**

試験中に火災を受信した場合

試験中の回線が火災を受信した場合、8の操作のあとに火災警報します。

(裏面につづく)

点検のしかた (表面からのつづき)

差動式分布型感知器 (空気管式) の作動継続時間の測定方法

地区音響鳴動による測定 (簡易測定方法)

●以下の試験は、点検用スイッチカバーを開けてください。

1 蓄積解除スイッチと試験復旧スイッチを押し、試験復旧状態にする。

- 蓄積解除灯、試験復旧灯、スイッチ注意灯が点滅します。
- 警戒中灯が消灯します。

2 地区音響強制停止灯が消灯していることを確認する。

3 差動式分布型感知器の試験孔に空気注入試験器で規定の空気を注入する。

●このときの地区音響鳴動開始から終了の時間を測定してください。ただし、測定中に自動復旧するため断続鳴動となります。
(例)断続鳴動回数が5回の場合
7.5秒×5回=37.5秒程度となります。

注意 継続時間の範囲をはずれる場合は、「テスターによる測定」で再度、測定してください。

4 試験終了後、蓄積解除スイッチと試験復旧スイッチを再度、押す。

- 蓄積解除灯、試験復旧灯、スイッチ注意灯が消灯し、警戒中灯が点灯し平常時の監視状態に戻ります。

試験中に火災を受信した場合
試験中の回線が火災を受信した場合、4の操作のあとに火災警報します。

感知器発信機の作動回線の確認方法

●以下の試験は、点検用スイッチカバーを開けてください。

1 試験復旧スイッチを押す。

- 試験復旧灯、スイッチ注意灯が点滅します。
- 警戒中灯が消灯します。

2 受信機音響を強制停止する

点検スイッチを3秒以上押ししている間に受信機音響停止スイッチを押す。

- 音響強制停止灯が点滅します。

3 地区音響を強制停止する

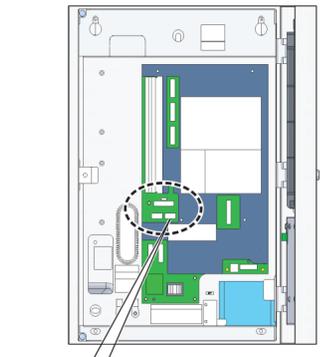
点検スイッチを3秒以上押ししている間にベル (地区音響) 一時停止スイッチを押す。

- 地区音響強制停止灯が点滅します。
- 約1分間隔でピ音が鳴ります。

4 受信機内の機能設定スイッチの点検時音響 (主音響・地区音響) 鳴動設定スイッチを「使用」側にする。

〔出荷時は「未使用」側で主音響・地区音響とも点検時音響鳴動なし。〕

※扉を開けた状態



機能設定スイッチ (SW2)
点検時音響 (地区音響) 点検時音響 (主音響) 鳴動設定スイッチ 鳴動設定スイッチ

1 2 3 4 5 未使用 使用
機能設定

5 作動試験したい感知器・発信機を動作させる。

- 受信機が警報動作したときの主音響・地区音響の鳴動回数は、試験している回線の番号分になります。
(例)受信機の3回線が警報したとき
…主音響・地区音響が3回出力されます。

注意

- 受信機音響、地区音響が強制停止状態で点検時音響 (主音響、地区音響) が出力されます。
- 点検時音響 (主音響) 鳴動設定スイッチが「使用」側であっても、音響強制停止灯が消灯している場合は、主音響が約6秒間動作します。
- 点検時音響 (地区音響) 鳴動設定スイッチが「使用」側であっても地区音響強制停止灯が消灯している場合は、地区音響が約6秒間動作します。
- 複数の回線が警報したときは、先に警報信号を受信した回線の点検時音響が出力されます。

6 地区音響強制停止を解除する

点検スイッチを3秒以上押ししている間にベル (地区音響) 一時停止解除スイッチを押す。

- 地区音響強制停止灯が消灯します。

7 受信機音響強制停止を解除する

点検スイッチを3秒以上押ししている間に受信機音響停止スイッチを押す。

- 音響強制停止灯が消灯します。

8 試験終了後、試験復旧スイッチを再度、押す。

- 試験復旧灯、スイッチ注意灯が消灯し、警戒中灯が点灯し平常時の監視状態に戻ります。

試験中に火災を受信した場合
試験中の回線が火災を受信した場合、8の操作のあとに火災警報します。

電池試験と電池の電圧測定方法

電池試験

●以下の試験は、点検用スイッチカバーを開けてください。

1 電池試験スイッチを押す。

- 電池試験結果灯が約5秒間、オレンジ点滅します。

2 試験結果が、「良」の場合は電池試験結果灯が緑点灯、「不良」の場合は赤色点灯する。

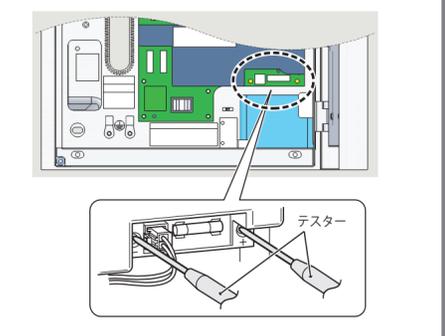
- 「不良」の場合、電池交換をしてください。
(「受信機の電池交換」を参照)

電圧測定

●以下の試験は、扉を開け点検用スイッチカバーを開けてください。

1 電池試験スイッチを押し、オレンジ点滅している間に、本体内の電池電圧の端子にテスターを当てて測定する。

注意 極性を間違えないよう、ご注意ください。



発報履歴の確認方法

●この操作は、受信機の過去の動作内容を確認するための操作です。

●以下の操作は、点検用スイッチカバーを開けてください。

1 点検スイッチを3秒以上押ししている間に選択スイッチを押す。

- 発報履歴確認モードになります。
- スイッチ注意灯が点滅します。

2 発報履歴回線を新しいものから表示します。

- 発報した地区灯が点灯します。
- 注意** 発信機が発報した場合、発信機も点灯します。ただし、複数の回線が同時に発報した場合は、正しく発信機灯が点灯しない場合があります。

2 選択スイッチを押すたびに次の発報履歴回線に変わります。

●記憶できる発報履歴は、最新30件までです。

3 約10秒以上、操作しないと平常時の監視状態に戻る。

- スイッチ注意灯が消灯します。

発報履歴を消去したい場合

●発報履歴回線を表示中に点検スイッチを3秒以上押ししている間に火災試験スイッチを3秒以上押ししてください。

受信機のヒューズの交換

警告

ヒューズ交換は電源 (AC100V) を切り、電池を取りはずした状態で行ってください。感電のおそれがあります。

必ず守る

ヒューズは必ず指定のものをご使用ください。指定以外のものを使用した場合、発火・故障の原因となります。

注意

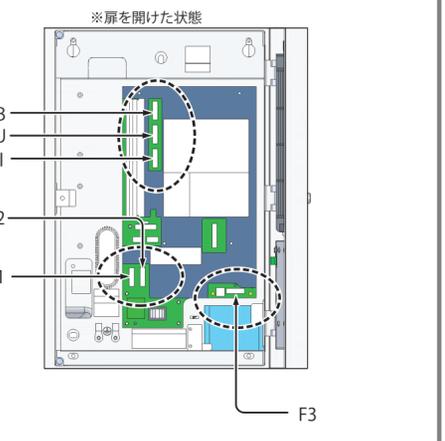
- 予備ヒューズは、電流量違いがありますので必ず指定のものを使用してください。
- ヒューズ交換時は、となりのヒューズ金具と接触させないでください。

取りはずす場合

- 1 ヒューズにヒューズ抜き差し工具を挿入する。
- 2 ヒューズ抜き差し工具をつまみ、引っ張る。

取り付ける場合

- 1 ヒューズ抜き差し工具にヒューズを挿入する。
- 2 ヒューズ抜き差し工具をつまみ、ヒューズ金具に挿入する。



記号	ヒューズ容量	用途
F1	2A	電源一次ヒューズ
F2	2A	電池ヒューズ
F3	2A	電池ヒューズ
FB	0.5A	地区音響ヒューズ
F1	0.5A	副受信機ヒューズ
FU	0.5A	表示灯ヒューズ

受信機の電池交換

注意 電池は、当社受信機専用 (受託評価適合品) をご使用ください。

接続コネクタの取りはずし方

- 1 接続コネクタの両端をつまみながらめき、電池を取りはずす。

取り付ける場合

- 1 新しい電池の接続コネクタを差し込み、電池を本体内に収納する。

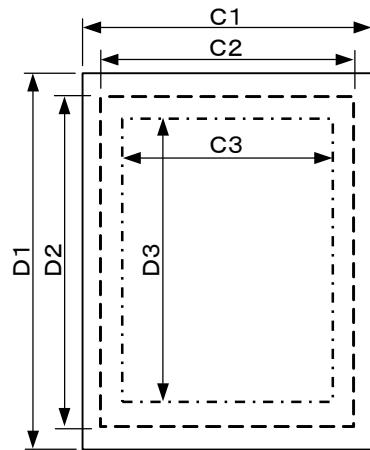
お願い事項

- 電池はリサイクル可能な貴重な資源です。ご使用済の電池は捨てないで、リサイクルへご協力ください。
- 電池の寿命は約5年です。取り付け日から5年をめやすに交換してください。停電時、正常に機能しない場合があります。

地図式フィルムの交換方法

1. 地図式フィルム交換の前に

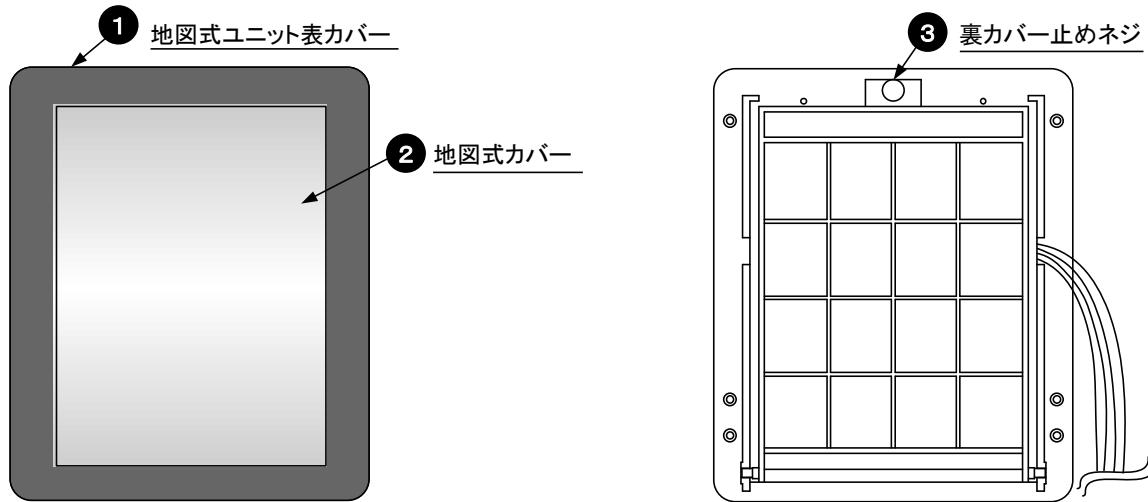
- 新しく組み込む地図式フィルムを準備してください。



記号		寸法(mm)
素材外形寸法	C1	160
	D1	208
作図寸法	C2	150
	D2	200
LED取付可能範囲	C3	139
	D3	165

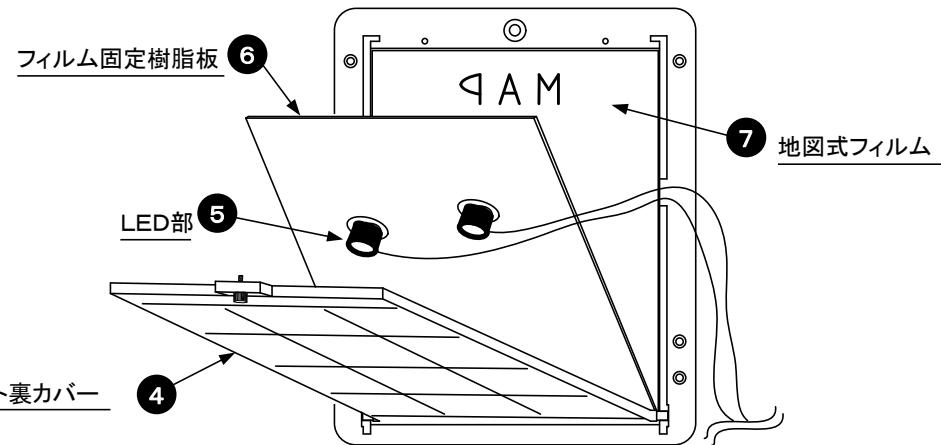
寸法図

2. 地図式ユニット構造図



正面図

背面図



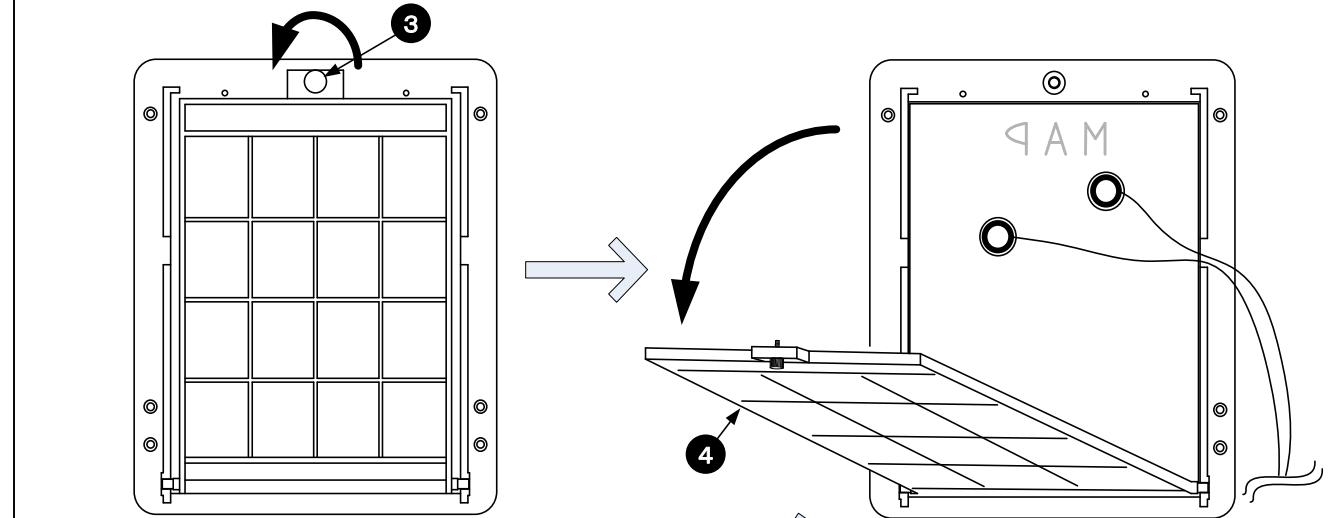
裏カバー止めネジをはずし、カバーを開けた状態

3. 地図式フィルム交換手順

3-1. 準備作業

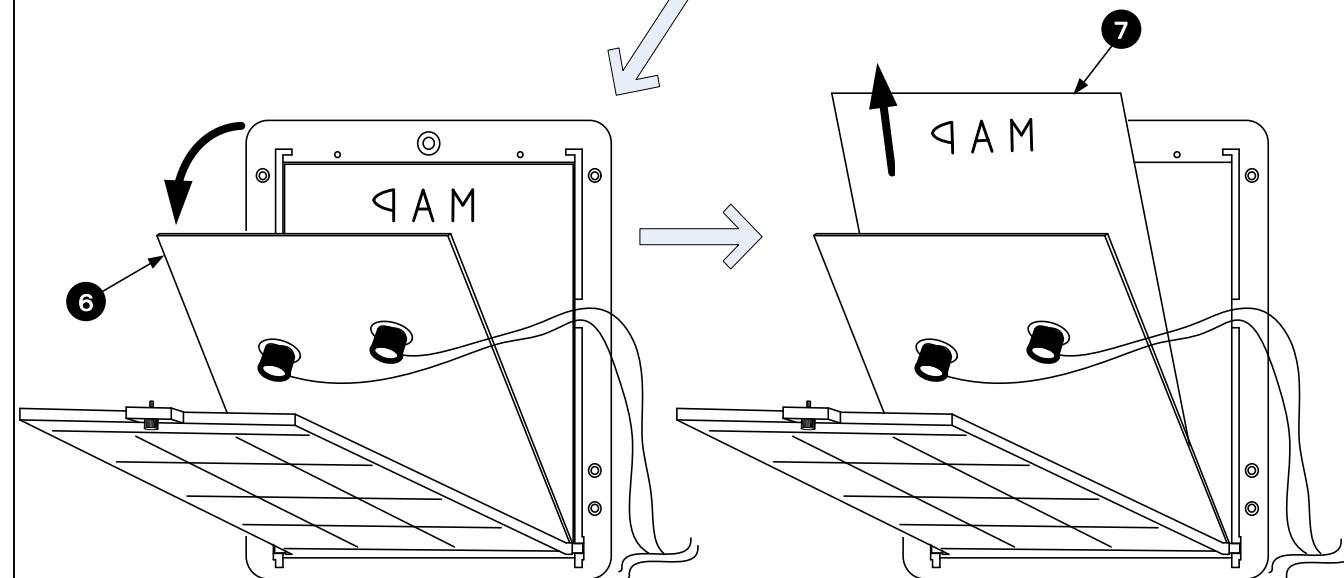
- 地図式フィルム交換作業を行う際は、受信機の電源を切ってください。(電池の接続も外してください)

3-2. 地図式フィルムを取り外す



3-2-1. ③ 裏カバー止めネジを外します。

3-2-2. ④ 地図式ユニット裏カバーを手前に倒します。

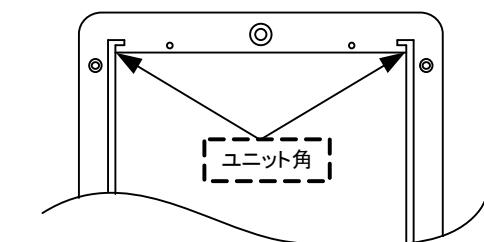


3-2-3. ⑥ フィルム固定樹脂板を手前に倒します。

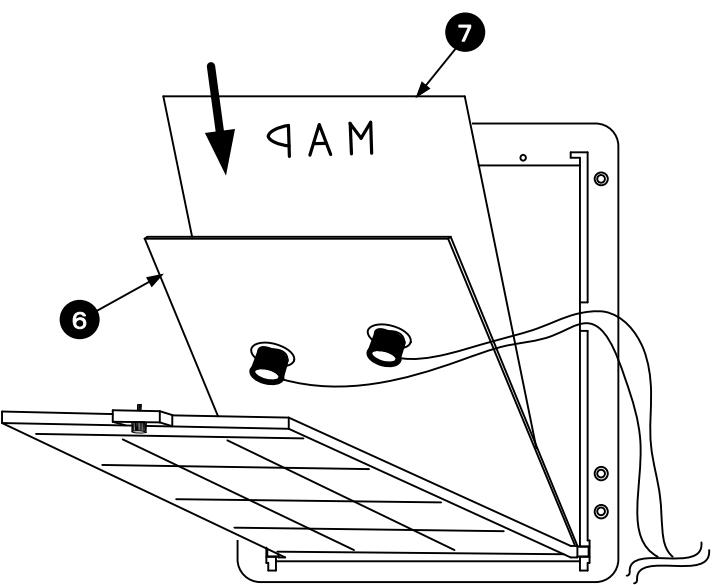
3-2-4. ⑦ 地図式フィルムを取り出します。

3-3. 地図式フィルムを設置する

【ご注意】
地図式フィルムは傷つき易いので、
爪等で引っかくことの無いよう
ご注意ください。

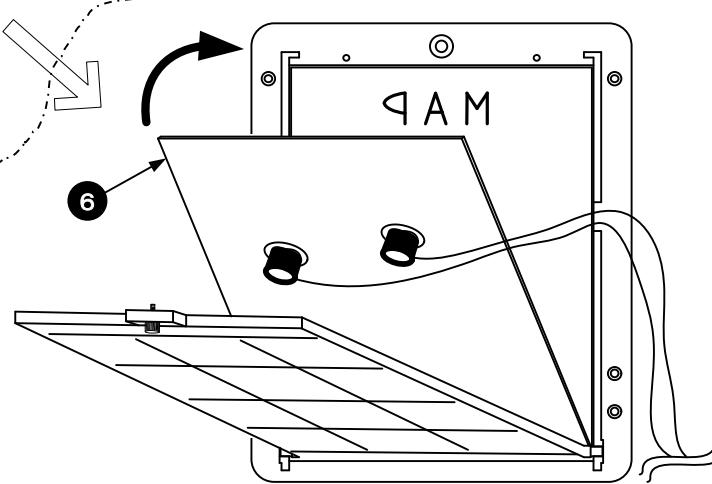


～フィルム挿入のポイント～
地図式フィルムを確実に奥まで挿入すると、
地図式フィルムの上端とユニットの角位置が
合いますので、確実に奥まで挿入してください。



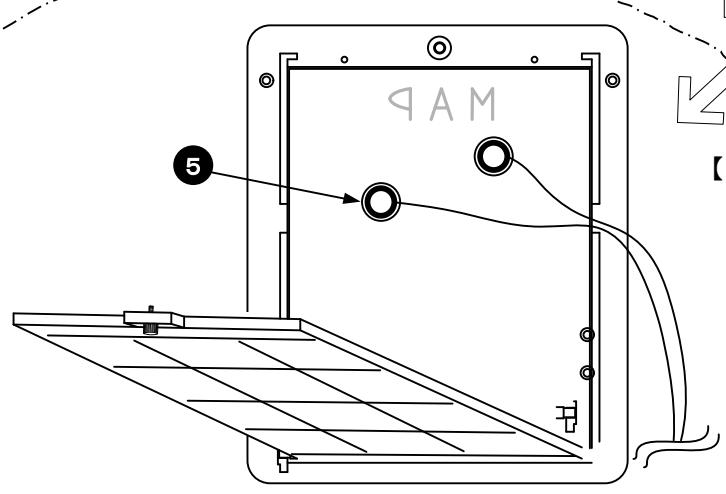
3-3-1. ⑥ フィルム固定樹脂板を手前に倒した状態で ⑦ 地図式フィルムを挿入します。

次工程に進む前に
LED部位置変更がない場合は、
『3-3-3. 新しく挿入した...LED部位置を変更する』
作業は必要ありませんので、
『3-3-4. 地図式ユニット裏カバーを戻す』作業へ
進んでください。

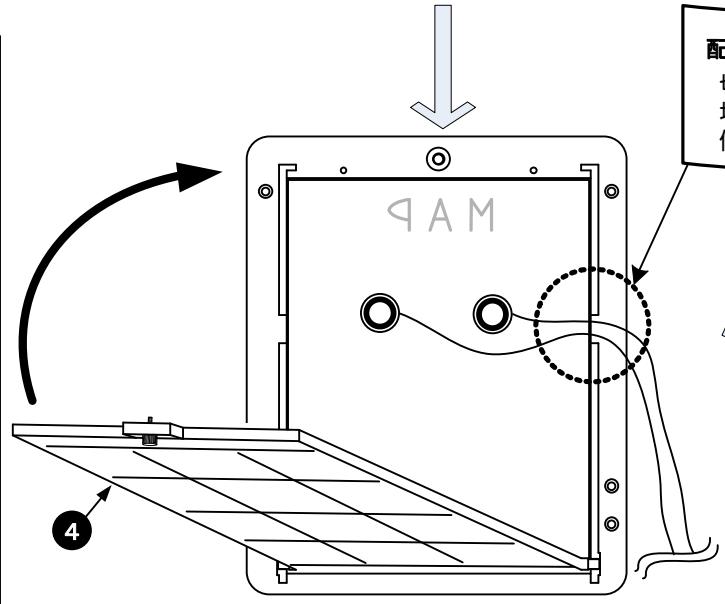
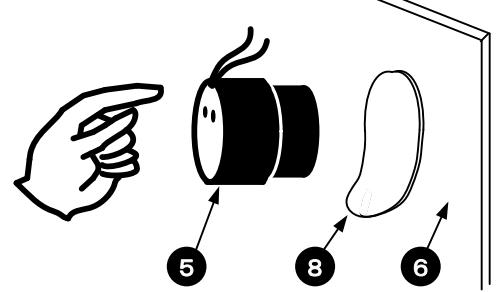


3-3-2. ⑥ フィルム固定樹脂板を戻します。

- 【LED位置変更は下記手順で行います】
1. 位置を変更したい ⑤ LED部、及び ⑧ 接着シートを ⑥ フィルム固定樹脂板より取り外します。
 2. 新しくLEDを点灯させたい位置に、⑧ 接着シートを貼り付け、重ねて ⑤ LED部を貼り付けます。
(この時、接着シートの粘着力・透明度が低下したら、未使用の接着シートを新たにご使用ください。)



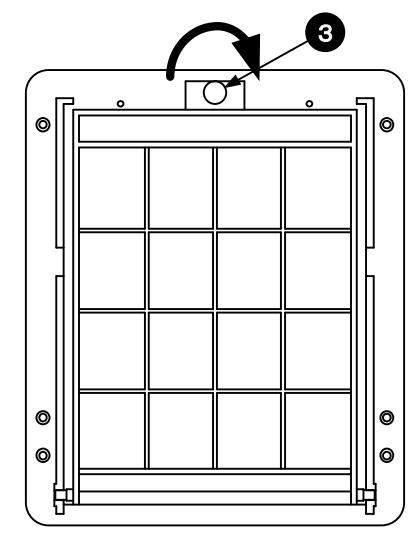
3-3-3. 新しく挿入した地図式フィルムに合わせ、⑤ LED部位置を変更します。



3-3-4. ④ 地図式ユニット裏カバーを戻します。※

※裏カバーを戻す際は、LED部の裏に配線が重ならないようにご注意ください。
※裏カバーに配線がはさまらないようにご注意ください。

配線は切り欠き部を通してください。
切り欠き部からズレた状態で裏カバーを戻しますと、
地図式ユニットと裏カバーの間に配線が挟まり、
傷つく恐れがあります。

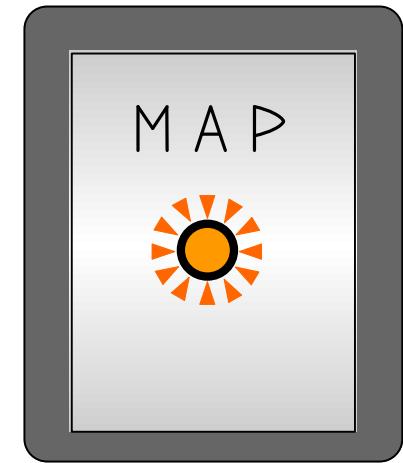


3-3-5. ③ 裏カバー止めネジを締めます。

3-3-6. 受信機の電源を入れ、電池を接続します。

3-4. LED点灯表示を確認する

『3-2. 地図式フィルム取り出し』及び『3-3. 地図式フィルム設置』作業終了後、
LED部を点灯させ、正しく設置されているか確認してください。
LED部がズレている場合は、LED部の位置調整 (3-3-3項参照) を行い、
再度確認してください。



<正常状態>



<LED部がズレている状態>
(再度調整必要)

以上で、地図式フィルム交換作業は終了です。